

## 令和元年7月29日 手賀・資源を守る会で 「田んぼの生き物調査」が行われました。

農業・農村は、県土の保全、水源のかん養、自然環境の保全、良好な景観の形成などの「多面的機能」を有しています。この「多面的機能」の維持・発揮を支える地域の共同活動を支援する「多面的機能支払交付金」制度を活用し、鹿行管内では、5市36組織が活動しています。

今回は、その中でも、将来を担う地域の子どもたちに対し、農村環境の大切さを伝える活動を行っている活動組織をご紹介します。

行方市内の活動組織「手賀・資源を守る会」は、「田んぼの調査隊」と称して、毎年、地元子ども会と連携して生き物調査を実施しています。

今年は、7月29日（月）に、地区内の田んぼや水路の周りを地域の子どもたちとその親御さん約40名と一緒に散策しました。

水路の生き物調査の様子 →



散策の途中には、この地域で育てている稲の生育状況や、稲を食べてしまうスズメの天敵であるトンビを模した案山子や、田んぼの水を綺麗にしてくれるタニシ等を観察しました。

また、水路では、ザリガニ、クサガメ、タナゴ等を見つけることができました。

生き物調査の後には、住宅や田んぼの排水が流れる水路の水質検査を行いました。パックテストを使用してCOD（化学的酸素要求量※値が大きいほど水が汚れている）を調べたところ、数値は8mg/L以上となり、飲み水（※水道の水質基準は3.0mg/L）には適さない水質であることが分かりました。また、pHを調べると、結果は中性で、田んぼに使う水には適していることを学びました。



↑ 水質検査の様子



↑ 子供たちが捕まえたタナゴ  
帰りにお土産として持ち帰っていました。

多面的機能支払交付金については、鹿行農林事務所土地改良部門 HP 内の以下のページをご確認ください。

多面的機能支払(旧農地・水保管理支払交付金)って何？

(<http://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/rokkonourin/tochi/tochikai/h25/tamenteki.html>)